

競技注意事項

1 競技規則について

2024年度（公財）日本陸上競技連盟競技規則、並びに本大会申し合わせ事項による。

2 招集について

- ①第4ゲート（200mスタート地点後方）に招集所を設置する。競技者は招集開始時刻までに集合すること。
- ②フィールド競技（跳躍競技・投てき競技）は全て現地招集とする（投てき競技は投てき場）。
- ③招集開始及び完了時刻は競技日程に記載する。
- ④招集完了時刻に遅れた競技者は、当該競技種目を棄権したものとして処理する。
- ⑤招集開始時刻に招集所（投てき競技は投てき場）で待機し、点呼を受けること。その際アスリートビブス、競技用靴等の点検を受けること。
- ⑥同一時間に他の種目と兼ねて出場する者は、招集所競技者係及び当該審判主任に申し出て了解を得ること。トラック競技が先に開始される場合は、トラック競技終了後、ただちにフィールド競技の競技場所へ移動し、担当競技役員に申し出ること。フィールド競技の途中でトラック競技に出場する競技者は、競技開始前に担当競技役員にその旨を申し出ること。

3 アスリートビブスについて

- ①アスリートビブスは胸と背に1枚ずつ確実につけること。女子選手のセパレートタイプのユニフォームについては、ナンバーが審判から見えるように4ヶ所で確実に留めること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸または背に1枚つけるだけでよい。
- ②トラック種目では、腰ナンバーを右腰後方につけること。
腰ナンバーは招集所にて配布するので、競技者各自が持ち出し、競技終了後はフィニッシュライン前方の回収箱に返却すること。
- ③ランニングシャツの形状により、裾を外に出して出場する場合は、必ず腰ナンバーが見えるようにすること。

4 競技場で使用する競技用靴について

- ①スパイクピンの長さは、9mm以内とする。ただし、走高跳・やり投は12mm以内とする。いずれの場合もスパイクピンの数は、11本以内とする。ピンの形状は全天候舗装の競技場で使用できる物とし、土のグラウンド用のピンを使用することは禁止する。
- ②靴底の厚さは以下のとおりとする。（このルールは2024年10月31日まで適用）

800m未満のトラック種目	20mm以内
800m以上のトラック種目	25mm以内
5000m競歩	40mm以内

三段跳	25mm以内
三段跳以外のフィールド種目	20mm以内

- ③靴底の厚さの検査は必ず実施するものではないが、トラック・フィールド各審判長の判断により、競技終了後に検査を実施する場合がある。
- ④砲丸投・円盤投・ハンマー投出場者も靴底の厚さが20mm以内のシューズを使用すること。（スローイングシューズを使用することが望ましい。）安全上および設備保全上の理由から、スパイクシューズのピンを外して使用することは禁止する。
- ⑤シューズについては、WA（世界陸連）の認証品リストを確認の上、使用すること。

WA（世界陸連 Web サイト；シューズ等の情報）



5 棄権について

出場種目を棄権する場合、本競技会においては特に申し出なくとも良い。

6 練習について

- ①練習会場は第2陸上競技場を使用し、別に定める練習会場使用方法に従って、安全に留意して練習を行うこと。
- ②第2競技場のメインスタンド下雨天走路は、ジョギングと体操のみ使用を許可する。ただし走幅跳や三段跳競技中は、当該出場選手の競技中の練習場所としての使用を優先する。第2競技場のバックスタンド外側の雨天走路は、ドリルや流し等の使用を許可する。雨天走路は一方通行で使用すること。
- ③投てき場隣のクレイグランドを投てき競技出場者用の練習場所として開放する。ジョギングや流し、MB投げなどの練習は、周囲に注意して実施すること。投てき用具（砲丸・円盤・ハンマー・やり等）を用いたターンや助走等の練習については禁止する。投てき用具を投げる練習は、競技開始直前の公式練習のみとする。
- ④投てき用具（砲丸・円盤・ハンマー・やり等）を投げる練習については、競技場所での競技前の練習試技のみとし、それ以外は認めない。
- ⑤第2競技場、投てき場、クレイグランドの開放時間・使用場所については、栃木陸協 Web サイト等でも別途提示する。
- ⑥練習に際しては競技役員の指示に従って安全に練習すること。
- ⑦総合運動公園内園路はジョギング程度なら可とする。（ただし集団での走行、リレーのバトンパスをしながらのジョギング等は禁止とする。）
選手・関係者及び公園の一般利用者の安全確保のため、ジョギング以外の練習は禁止する。（メディシンボール投げやハードルを用いた練習等も禁止。）

7 競技者の入退場について

- ①競技場所への出入りは競技者・役員・審判員・補助員のみ許可する。付添人・指導者等の入場は不可とする。
- ②トラック競技に出場する競技者は、フィニッシュ後はバックストレート側を通過してスタート地点に戻る。フィニッシュ後にメインスタンド前を通らないこと。
- ③フィールド競技者も他の競技の妨げとならないよう、係員の指示に従うこと。

8 トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順、リレーについて

- ①トラック競技の組・走路順、フィールド競技の試技順は主催者が抽選し、プログラムに示すので、審判員の指示に従うこと。
- ②リレー競走に出場するチームはリレーオーダー用紙を作成し、第1組目の招集完了時刻の1時間前までにT I Cに提出する。リレーオーダー用紙はT I Cで配布するが、栃木陸協 Web サイトにも掲載する。
- ③リレー競技に出場するチームは、原則として同一ユニフォームで参加すること。上衣のデザインが統一されていれば、シャツ・パンツ・タイツの形状が異なっても良い。

9 競技について

- ①国スポ予選の部において、トラック競技で参加者が多い種目は予選及び決勝ラウンドを実施する。参加者が少ない場合は予選を実施せず決勝のみ実施する。フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）はトップ8による6回試技を実施する。
- ②記録会の部においてはオープン種目とし、トラック競技はタイムレース決勝のみ実施する。フィールド競技（走高跳・棒高跳以外）は3回の試技までの実施とする。
- ③トラック競技は、不正スタート1回で失格とする。

④リレーについて

ア) リレーには各団体および各学校から複数チーム出場することができる。

イ) リレーチームの競技者が何らかの理由で欠場し、リレーチームの編成ができない場合、当該団体・学校の競技者で他の種目に出場している選手をリレーメンバーとして起用することは認める。

⑤各競技の結果はWeb上の速報サイトに掲載する。

⑥各競技の開始時刻や招集時刻については、プログラムに記載されている競技日程が正式なものである。栃木陸協のWeb速報サイトに記載する競技開始時刻や招集開始時刻は、コンピュータシステムの不具合により、誤った表記をする場合がある。

⑦抗議については、TR 8による。助力については、TR 6による。

10 跳躍競技（高さ・踏切板の距離）について

①走高跳・棒高跳の練習でのバーの高さ、競技開始後のバーの高さは、跳躍審判長の判断により決定する。

②第1位決定のバーの上げ下げは走高跳2cm、棒高跳5cmとする。

③雨天の際は協議の上、高さを変更することもある。

④三段跳における踏切板の距離については、跳躍審判長の判断により決定する。

11 競技用器具について

①競技に使用する用器具は、検査を受け合格したものについてのみ使用できる。ポールおよびやりの検査は、招集後現地にて行う。

②検査で合格したやりについては、主催者にて預かり、主催者のものとして使用する。

12 表彰について

国スポ予選の部で各種目優勝者には賞状を授与する。

13 その他

①TIC (Technical Information Center) をメインスタンド1階、正面玄関内に設置する。

TICでは、参加団体受付、オーダー用紙の取扱い、競技に関する抗議の受付、プログラム訂正の受付、遺失物保管などの業務を行う。

②競技中の傷病などについては、主催者が応急手当をするが、以後の責任は負わない。

③各チームの第2競技場内待機場所については、栃木陸上競技協会が指定した場所とする。

第2競技場の2Fコンコース内にテントを設営することは認めない。また、競技場外の公園敷地でのテント設営は一切禁止する。なお、各チームベンチとして観客席・雨天練習場・更衣室等を占領してはならない。

④貴重品をはじめ物品の管理は、各自・各チームの責任の下で行う。

⑤更衣室は使用可とするが、更衣室内に長時間滞在しないこと。

⑥第2競技場での横断幕設置は、観客席最上段のフェンスにひもで縛って設置すること。

観客席最前列の手すりに設置することは禁止する。また競技や観戦の妨げとなる状態で設置しないこと。

⑦ユニフォームやバッグ等の商標に関する規定については、日本陸連の指針に則った対応とする。(下記QRコードから閲覧できる日本陸連公式サイトを参照)

競技会における広告および展示物に関する規程〔国内〕



14 災害時の避難場所

主催者の判断で避難の放送が入るので、避難誘導係の指示に従い落ち着いて行動すること。